

地域の話題 札幌市

# 「札幌らしい交通環境学習の展開」

子供の頃から公共交通に親しみを持ち・クルマは  
かしこく使うことを目指して

札幌市では平成21年度から「札幌らしい特色ある学校教育」として、「北国札幌らしさを学ぶ【雪】」、「未来の札幌を見つめる【環境】」、「生涯にわたる学びの基盤【読書】」の3つのテーマに取り組んでいる。このうち、雪と環境という観点から公共交通機関の重要性を学ぶ授業や教材プログラムの開発に力を入れている札幌市立幌西小学校の新保元康校長に、その取組みについて寄稿していただいた。



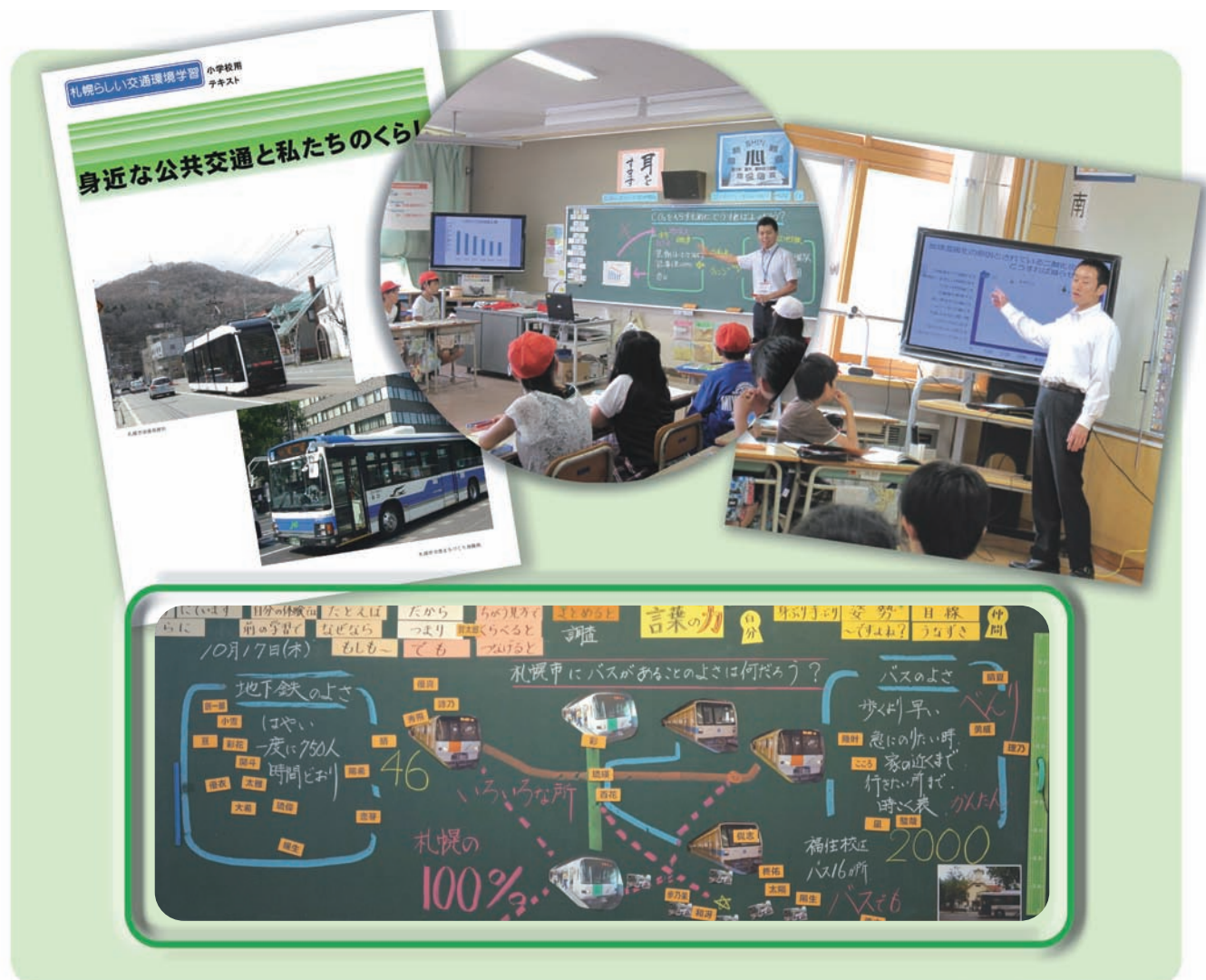
札幌市立幌西小学校  
校長 新保 元康

## 「札幌らしい交通環境学習プロジェクト」の概要

「豊かな自然環境に恵まれた札幌」このイメージは、多くの大人も子供も意識していると思います。しかし、「市街化区域のほぼ100%に公共交通でアクセスできる便利な街札幌」ということはほとんど知られていないのではないのでしょうか？ 特にほとんどの子供は意識していないでしょう。さらに、この両者が密接に関係していることは全く考えたこともないのでは…と思

います。

公共交通を賢く使うことが、札幌の豊かな自然環境を維持するためにもとても大切な役割を果たすことになる。このことを初等教育の段階から効果的に学ばせるにはどうしたらよいのか。この問題を解決しようと「札幌らしい交通環境学習」プロジェクトはスタートしました。



プロジェクトは、平成23年度から始まり、今年度で3年目となります。札幌市の交通部局（札幌市市民まちづくり局総合交通計画部）が事務局となり、小学校においてMM（モビリティ・マネジメント※）教育を現場の学校教諭とともに、検討・実施することが目的です。1年目・2年目は、公共交通（バス・路面電車・地下鉄など）を教材とした授業プログラムの開発や研究授業の実践を実施し、3年目となる今年度は、児童用のテキスト作成や学校教諭を対象としたフォーラムの開催も実施しています。また、学校教諭に対して、授

業を実践する際の指導案や各種情報やデータを活用してもらうためのweb上のプラットフォームの検討も実施してきました。



※モビリティ・マネジメント：多様な交通施策を活用し、個人や組織・地域のモビリティ（移動状況）が社会にも個人にも望ましい方向へ自発的に変化することを促す取り組み。

## プロジェクトの五つの目標設定

「札幌らしい交通環境学習」プロジェクトでは、表に示すとおり、五つの目標を設定し、それに対応する形で、活動を展開しています。

第一の目標は、「学習指導要領に準拠した学習プログラムの開発」です。どんなに時代の求める授業であっても、学習指導要領に沿ったものでなければ、公立学校で実施することはできません。学習指導要領と交通環境学習との接点を探ることからこのプロジェクトはスタートしました。

また、札幌市教育委員会の定める、「札幌市学校教育の重点」、なかでも「札幌らしい特色ある学校教育」との関連も強く意識してプロジェクトを進めました。「札幌らしい特色ある学校教育」は、【雪】【環境】【読書】の三本柱で進められています。交通環境学習はまさに【環境】の学習として、札幌市立の学校であれば、大いに推進すべきものだとということになります。

第二の目標は、「1年生～6年生まで各学年におけるMM教育の実施」です。特定の学年だけでの学習では、効果は限られてきます。児童の発達段階に合わせて、少しずつ繰り返し学習することで、着実に認識が高まるのです。また、今回は試行的な授業であるため、様々な学年で試みることで、最も有効に学べる学年を探ることも可能になると考えました。

目標の三つ目は「教諭が主体となった授業の実施」をすることです。昨今、出前講座形式で外部の方がゲストティーチャー（講師）として授業し、好評を得ています。しかし、この出前方式では、単発的な学びとなり、学習成果が定着しにくいという課題もあります。また、ゲストティーチャーは、学習指導要領や、既習事項についても知識が不十分であることが多いのも課題でした。

やはり、最も効果的なのは、日々指導に当たっている教師が主体となって授業を開発し、自ら授業することです。さらに、現場の教諭と交通や環境の専門家が手を結び、互いの専門性を生かしながら授業開発、実践することで最大の効果を上げることができるのではないかと我々は考えました。

目標	実施・検討内容等
<b>目標①</b> 学習指導要項と連動した学習プログラムの開発	●教諭を主体とするワーキンググループを設置し、学習プログラムを検討
<b>目標②</b> 1年生～6年生まで各学年におけるMM教育の実施	●研究授業の蓄積
<b>目標③</b> 教諭が主体となった授業の実施	●教諭が主体となった授業実績を実施
<b>目標④</b> 札幌市内小学校へのMM教育の広がり	●教諭に配付される指導書への掲載 ●教諭を対象としたフォーラム等の開催 ●webプラットフォームによる情報提供
<b>目標⑤</b> 関係団体等の連携体制の構築	●協働体制の構築 ●webプラットフォームによる情報共有

▲本プロジェクトの目標と実施・検討内容

さらに、目標の四つ目は、「札幌市内小学校へのMM教育の広がり」を図ることです。どんなに価値のある学習プログラムが出来あがったとしても、それを他の教諭が知らなければ、また、実践できなければ、意味がありません。そこで、研究授業の成果を一般化し、教諭に配布される指導書への掲載を目指すとともに、多くの教諭に知っていただくために、教諭を対象としたフォーラムも開催してきました。

最後に目標の五つ目は、「関係団体等の連携体制の構築」を図ることです。MM教育に関連する取組みを実施する組織や団体は複数存在していることから、関係団体間及び関係団体と学校教育現場が連携することは重要であり、協働及び情報共有をweb上で迅速に行う仕組みを検討しています。



## ■ プロジェクトの推進体制～現場の学校教諭と専門家が連携～

「札幌らしい交通環境学習」プロジェクトを推進する体制としては、全体的な方針等を議論する「札幌らしい交通環境学習検討委員会」には、MMの専門的知識を有する学識経験者の他、交通に関連する行政機関、バス協会や環境を専門とする財団法人等の関係団体、さらに、学校関係として、教育委員会と教諭が参画しています。さらに、学習プログラム等の検討においては、学校関係者によるワーキンググループを設置し、集中的な議論を行っています。

さらに、本プロジェクトの事務局である市交通局とワーキンググループの教諭とは、メーリングリストでも繋がり、授業に必要な情報やデータ等のやりとりは、日常的に活発に繰り返されています。

良質な学習プログラムの構築には、専門的知識を有する方々との連携は重要であり、授業を実践する教諭の疑問や問いかけにも明確な回答が出来る体制がとれていることも本プロジェクトの特徴と言えると感じます。

### ■ 委員長

高野伸栄 准教授 (北海道大学)  
谷口綾子 准教授 (筑波大学)

### ■ 一般社団法人北海道地区バス協会

■ 公益財団法人北海道環境財団

■ 「地域と教育」を元気にするフォーラム

■ (株)アドバコム

## 札幌らしい 交通環境学習検討委員会



### ■ 北海道運輸局 (運輸行政)

■ 北海道開発局 (道路行政)

■ 札幌市交通局 (交通事業者)

■ 札幌市総合交通計画部 (事務局)

### ■ 札幌市教育委員会

■ 札幌市立小学校教員  
(校長1名・教諭10名)

WGの設置

▲札幌らしい  
交通環境学習の推進体制

交通を教材とした授業プログラムの開発と教諭が主体となった授業実践

実施時期	学年	教科	授業内容
H23年度 (3学期)	5年生	社会	暮らしを支える情報
H24年度 (1学期)	5年生	総合	環境について考えよう
H24年度 (1学期)	5年生	総合	環境 HOT COM
H24年度 (2学期)	3年生	社会科	もっと知りたいみんなのまち
H24年度 (2学期)	6年生	社会科	暮らしの中の政治
H25年度 (1学期)	4年生	総合	身近なバスと私たちの暮らし
H25年度 (1学期)	6年生	社会科	暮らしの中の政治

▲これまで実践してきた研究授業一覧

平成23年度から、これまで、社会科と総合的な学習の時間において、7校で研究授業を実践してきました。実施学年も3年生～6年生と幅広く、学習内容も学習指導要領と各学年のレベルに対応する形で学習プログラムを考え、指導案を作成し、研究授業の実践を行っ

ています。平成25年度の2学期以降にも5校での研究授業の実践が予定されており、ワーキンググループにおいて精力的に議論を行っているところであります。最終的には、3カ年のプロジェクトで12本の授業開発をすることになります。



▲授業実践前の作成する指導案



▲授業実践の様子

## ■ 活動内容を広める～学校教諭を対象としたフォーラムの開催～

平成25年7月には、本プロジェクトの活動を多くの学校教諭に広めるために、『札幌らしい交通環境学習フォーラム』を山の手南小学校において開催しました。フォーラムのプログラムとして、4年生と6年生の公開授業の実践と公開授業後の意見交換会、さらに、一学習教材としての『交通』とは一というテーマで、北海道大学大学院工学院准教授の高野氏、株式会社アドバコム代表取締役の白井氏、札幌大通まちづくり株式会社取締役統括部長の服部氏、札幌市市民まちづくり局

総合交通計画部公共交通担当部長の新津氏にパネリストとしてご登壇いただき、私がコーディネーターとして、パネルディスカッションも実施しました。

このフォーラムには、100名を超える多くの方々にご参加いただき、学校教諭から交通環境学習についての前向きな発言をいただくと同時に、アンケートでも今後、『交通』を題材にした授業を実践してみようと思ったという回答を数多くいただけたところであり、有意義なフォーラムとなりました。

### ▼『札幌らしい交通環境学習フォーラム』の様子



▲札幌市立幌西小学校 校長 新保(筆者)



▲北海道大学大学院 工学院准教授 高野氏



▲(株)アドバコム 代表取締役 白井氏(左)  
札幌市まちづくり(株) 取締役統括部長 服部氏(右)



▲札幌市市民まちづくり局 総合交通計画部  
公共交通担当部長 新津氏

## ■ おわりに～交通を教材とする意義～

「交通」は大人にとっても子供にとっても、極めて身近な社会的な存在です。その「交通」をめぐる、都市部では交通渋滞、地方部では公共交通機関の衰退、さらに地球規模では温室効果ガスの増加など、実に様々な問題が生じています。

これらの社会的問題は、いずれも、その地域にくら

ず私たちの生活やふるまいによってもたらされたものであることを冷静に考え振り返ると、「交通」を教材として、学校教育の中で取り扱う意義は極めて大きいと、このプロジェクトを通じて、改めて感じる所であり、今後も精力的に活動を進めることが重要と考えています。